

平成 25 年 2 月 18 日

「新たな公益活動の芽生えと今後の展望～震災後 2 年を前にして～」(概要)

1 開催概要

- 開催日：平成 25 年 1 月 29 日（火）13：30～16：30
- 場 所：日本学術会議講堂
- 主 催：内閣府
- 参加者：323名（応募者290名、関係者33名）  
※内閣府の関係者を除く



2 内容

①池田委員長による主催者挨拶



②稲田大臣による来賓挨拶



### ③曾野綾子先生による基調講演（「人生のミーティング・ポイント」）



### ④雨宮委員による「新公益法人制度の運営状況と公益法人の現状」の報告



#### 【講演概要】

- ①新公益法人制度の概要
- ②公益目的事業について
- ③公益認定基準
- ④申請・審査の状況
- ⑤東日本大震災に関連した公益法人の現状
- ⑥平成 23 年度における公益法人等の現況について
- ⑦公益目的事業に該当する公益認定法第 2 条別表各号の割合について

### ⑤パネル・ディスカッション

#### 【参加者】

- |       |   |
|-------|---|
| 鍋島 英幸 | （公財）三菱商事復興支援財団副会長、三菱商事（株）代表取締役 副社長執行役員      |
| 油井元太郎 | （公社）SWEET TREAT 311 理事                      |
| 木川 眞  | ヤマトホールディングス（株）代表取締役社長執行役員、<br>ヤマト運輸（株）取締役会長 |
| 黒田かをり | （一財）CSOネットワーク 事務局長・理事                       |
| 堀田 力  | （公財）さわやか福祉財団 理事長 ※コーディネーター                  |



#### 【パネル・ディスカッション概要】

- ①（公財）三菱商事復興支援財団からの事例紹介
- ②（公社）SWEET TREAT 311 からの事例紹介
- ③ヤマトグループの活動紹介
- ④意見の取りまとめ

## パネル・ディスカッションにおける主な御意見

### 【鍋島 英幸：（公財）三菱商事復興支援財団副会長、三菱商事副社長】

- 産業復興・雇用創出に向けて、地元の金融機関と協力し、8件、総額5億5,000万円を支援し、約800人の雇用を創出
- 被災大学生へ奨学金として延べ1,700名、21億円を給付
- 被災地のために活動するNPO等への助成金として370件、9億円を給付
- 「ともに、前へ、ともに、明日へ」が財団の基本であり、地元のニーズに迅速に応え、息の長い支援を行っていく

### 【油井元太郎：（公社）SWEET TREAT311 理事】

- 震災後、友人同士が集まって立ち上げた法人
- 震災後の5月頃から炊き出しを実施。その後、物資支援というフェーズから学習・教育支援に活動内容を変更。現在は法人が雄勝町に開設した「雄勝アカデミー」で活動
- 学習・教育支援によって復興を担う人材を育てたい
- 被災地は不幸な境遇にあるが、そういったことが逆に新しいものを生む出すチャンスにもなっている

### 【木川 眞：ヤマトホールディングス（株）社長】

- ヤマトの本業を活かし救援物資輸送協力隊活動を実施。車両200台、人員500名を投入
- 宅急便1個について10円の寄附を1年間継続。結果、純利益の4割にあたる142億円を寄附
- 助成にあたっては、「見える支援、早い支援、効果の高い支援」をコンセプトに、174件の応募に対して31件を支援
- 事業と一体化する形で地元と共有できる公益的な価値を見出す活動を行っていく
- 官と民のつなぎ役として公益法人は最も適しているのではないか

### 【黒田かをり：（一財）CSOネットワーク 理事】

- 今回の震災を契機として、NPOとNGO等の連携を始め、これまで繋がりがなかったところにセクターを越えた連携が生まれている
- 公益法人は現場と企業、現場と行政、現場と日本社会をつなぐ大きな役割を果たせるのではないか

### 【堀田 力：（公財）さわやか福祉財団 理事長】

- 新公益法人制度によって、公益法人は官の規制を離れ、自由に志を活かすことができるようになった。我々はそれを活用しなければならない
- 被災地の声と国・地方自治体をつなげることは、公益法人に適した役割である
- 公益法人のノウハウと知識が発揮されれば復興の後押しになる

# 新たな公益活動の芽生えと今後の展望～震災後2年を前にして～ アンケート集計結果

アンケート集計総数:248

## 1 所属団体等

① 公益法人	② 一般法人	③ NPO法人	④ 行政機関	⑤ 教育機関	⑥ 研究機関	⑦ 士業	⑧ 民間企業	⑨ その他	合計
146	35	3	8	7	1	16	18	14	248
58.9%	14.1%	1.2%	3.2%	2.8%	0.4%	6.5%	7.3%	5.6%	

## 2 年齢

① 10歳代	② 20歳代	③ 30歳代	④ 40歳代	⑤ 50歳代	⑥ 60歳代	⑦ 70歳代以上	合計
2	3	17	29	66	98	32	247
0.8%	1.2%	6.9%	11.7%	26.7%	39.7%	13.0%	

## 3 性別

① 男性	② 女性	合計
213	35	248
85.9%	14.1%	

## 4 今回のシンポジウムを何でお知りになりましたか。

① 内閣府ホームページ	② 公益認定等委員会だより	③ その他	合計
94	101	48	243
38.7%	41.6%	19.8%	

## 5 基調講演について

① 有意義であった	152	63.9%
② どちらかといえば有意義であった	70	29.4%
③ どちらかといえば有意義でなかった	8	3.4%
④ 有意義でなかった	8	3.4%
合計	238	

## 6 パネルディスカッションについて

① 有意義であった	156	70.0%
② どちらかといえば有意義であった	60	26.9%
③ どちらかといえば有意義でなかった	5	2.2%
④ 有意義でなかった	2	0.9%
合計	223	

## 7 新たな公益活動について理解が深まったと思いますか。

① そう思う	126	54.5%
② どちらかといえばそう思う	89	38.5%
③ どちらかといえばそう思わない	16	6.9%
④ そう思わない	0	0.0%
合計	231	

感想等(①及び②と回答された方は、どのような点について理解が深まったかお書きください。)

・認定を受けるまでは、公益事業の理論にばかりこだわっていた。公益活動は机上論ではなく、いかに社会に見える活動を行っていくかが重要であると実感できた。これまで行政任せにしていた事業に、民間が関わり、民間の手によって社会をつくりあげていくことが大切なことだと感じた。(公益法人・女性・30歳代)

・生活のためには生産活動の復興が第一ということを再認識した。その生産活動の復興に企業が貢献していることをあまり知らなかったが、まさに「官から民」へのシフトの必要性を感じたところである。私どもも私たちにできることを小さくてもいいので検討したいと思いました。(公益法人・男性・60歳代)

## 8 今後、公益法人の活動が広く社会に根付いていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。本日のシンポジウムの御感想も含めて自由にお書きください。

・義務教育の段階で「公益活動とはどういうものか?」、「ボランティアとは、どういうものか」など徹底して教え、そして少しでも活動させて、経験を積ませることが必要である。(公益法人・男性・50歳代)

・震災復興が遅れているという論調がメディア、マスコミ等では優勢だが、パネルディスカッションの冒頭でもコーディネーターの方から指摘があったように、もっとこうした民間活動が行われていることや、その活動に必要な、不足している資源などを社会に知らせる活動が足りないことがわかった。(公益法人・男性・50歳代)